

成シ之ヲ軍紀犯罪ト名ケテ可ナリ
 此外兵ノ性質タルヤ総テ其凡百ノ元素テ統合スルヲ勝利
 ノ本トスルヲ以テ各個兵ハ獨リ右ノ軍紀犯罪ヲ犯スヘカ
 ラサル而已ナラス其眞ノ勤務ニ屬セサル動止ニ於テモ紀
 律ヲ守ルノ責アリ蓋シ此ニ係リテハ其各個ノ所爲ニ就テ
 確定シタルモノナシ夫レ兵ニ在リテハ其事ヲ爲シ或ハ措
 シヘキ方法態式及符徴アリ若シ故ラニ之ヲ犯シ若クハ忽
 ニスルニ於テハ凡テ規準ノ尊奉ヲ薄クスルニ至ルヤ明カ
 ナリ故ニ長官タルモノハ各個兵ヲシテ皆ナ自カラ此方法
 態式等ヲ遵守セシムルノ方便ヲ得サルヘカラス面ノ此方
 法態式等ヲ遵守シ總テ軍人長官同僚其他トノ交接ニ於テ
 中心ヨリ出ルノ動作ト獨己ノ注意トヲ以テ器械的ノ服從

義務ヲ盡スヘキヲ普通ノ軍紀トシ此軍紀ヲ維持スルノ
 法ヲ普通懲罰法ト云フ
 右軍紀ノ兩種ハ共ニ相關涉シ之ヲ區別スルハ事ノ自然ニ
 出ツルヲ疑テ容レサルニ拘ハラス其要需及犯戻ノ外面ノ
 境界ヲ確然論定スルヲ難シ故ニ軍紀犯罪ニ屬スルト否ト
 ナ判定スルヲ指揮官ニ任スルハ亦々止ムヲ得サル者ナ
 リ蓋シ懲罰ノ欠クヘカラサルヲ及之ヲ科スルハ其軍紀犯
 罪ヲ認メタル長官ニ在ルヲ疑テ容レズ以テ確明法律ニ代
 ユルニ意見判定ヲ以テスルハ兵制上免カルヘカラサルモ
 ノトス然レモ法律天地ノ進步ハ此點ニ就テモ之ヲ限制シ
 テ勤務ノ害ヲ生セサルモノニ止ムヘキ方便ヲ得タリ
 此方便ハ即チ懲罰ノ性質中ニ在リトス蓋シ懲罰ハ軍紀犯

罪ト同シク確定セサルモノニシテ抑モ吾人カ懲罰法ト名
 シル所モノ及其原則適用ニ係リ確然論定スルノ難キニ隨
 ヒ彌々其原則ヲ定ムルヲ必要トスル所ノモノハ即チ此理
 由ニ在リトス此簡單ナル原則ハ即チ左ノ如シ
 一軍事裁判ヲ經ス唯タ指揮官ヨリ宣告スル所ノ刑ノ最上
 限ハ法律ヲ以テ定メサルヘカラス(禁錮等)而シ其寬嚴ノ
 度ハ必ス民ノ教育ノ度ト相反シ民ノ教育彌々高ケレハ
 其刑ノ度彌々寬ナルヲ得其之ニ反スルモノ亦タ同シ然
 レモ全ク之ヲ絶ツハ難シトス
 二此刑ノ度中亦タ階級ヲ立テ此階級中ニ於テ軍人官等ノ
 高下ニ隨ヒ處斷ノ權ニ區別ヲ立テサルヘカラス
 三總テ軍人ハ上官ニ處斷ノ不服ヲ訴フル權ヲ有セサルヘ

カラス然レモ之ヲ爲メニ其處刑ヲ中止スルヲ得サルハ
 勿論トス又上官其訴ヲ受ケタル時ニ當リ其訴輕忽ニ出
 テ其刑輕キニ過ラルト認ムル時ハ之ヲ重クスルヲ得ル
 一勤務ノ利益上欠クヘカラサル者トス
 此三原則ニ刑法ト共ニ明文ヲ以テ定ムルヲ良シトス

丙 榮譽裁判所

榮譽裁判所亦タ軍事司法ノ特別体裁ニ屬スルモノニシテ
 其起原ハ律ニ在ラス又律ヲ犯スニ在ラス徒々此裁判所ヲ
 以テ決闘ヲ防キ若クハ裁可スルヲ以テ旨義トセリ然レモ
 總テ刑法ハ必ス決闘ヲ禁スルカ故ニ榮譽裁判所ハ他ノ律
 ト調和スヘカラサルノ矛盾ヲ含有スルヲ以テ之ヲ設クル
 ノ理由ハ正ニ他ノ點ニ在リ即チ軍人ノ職業ニ於ケル定法

ヲ犯スコトナシテ其職業ヲ犯スコトアリ而シテ此職業ヲ犯ス
 即チ總テ其同族ヲ犯スト云ヘル感情是レナリ故ニ榮譽裁
 判所ハ元來矛盾ヲ含有スル處ノ決闘ヲ裁可スル能ハス又
 裁可スヘカラス其裁定ヤ普通ノ裁判宣告ト同一ナル能ハ
 ス又同一ナルヘカラス其卑怯賤劣ニ係ルト其同族ノ侮辱
 ニ屬スルト未論セズ唯々其同族トシテ職業ノ犯凌ニ就テ
 説示スルニ止マルヘシ隨テ其裁定ハ毫モ法律上ノ効チ有
 ズ唯々其職業ヲ汚スルキ所爲ヲ爲ス處ノ人ニシテ若シ
 其職掌ヲ去ラサルハ同族皆其職業ニ屬スルヲ耻チ之ト
 勤務ヲ共ニスルコト欲セサルコト説示スル責任アルノミ
 榮譽裁判所ハ此意ヲ以テ決闘ヲ防クモノナリ何トナレハ
 其被犯者ヲシテ公ニ奉スル身ヲ私事ニ投ヒシムルヲ爲サ

ス犯者ヲシテ其職業ヲ去リ若シハ其罪ヲ謝セシムルモノ
 ナレハナリ蓋シ同族ノ親和惟一ヲ要スル此制亦タ已ム能
 ハス將校德義ノ地位之ヲシテ然ラシムルモノナリ而シテ荷
 シモ法律上ニ於テ此制ヲ許スニ於テハ其裁判所ノ職制及
 裁判方法亦タ法律ヲ以テ定メサルヘカラス夫レ軍事ノ勤
 務及職業ヲ以テ同時ニ德義上ノ者トシ裁判官ヲ以テ之ヲ
 維持スヘキ機關ヲ設クルニ至ルハ上ノ意義ニ循ヒ初メテ
 完全ノ理由アルモノトス而シテ兵卒ノ普通教育進歩スルニ
 隨ヒ其同僚ノ榮譽裁判所ヲ有スルコト將校ノ其同族ノ榮譽
 裁判所ニ於ケルト同一ナルニ至リテ初メテ其旨趣ノ完全
 ヲ得ヘキナリ

其三兵ノ公法

兵ノ公法ハ其大旨ニ就テ論スレハ國ノ機關ノ獨立部分ヲ
 ル兵ノ爲メニ其國ノ全体ニ對スル關係ヲ示ス所ノ定則ヲ
 總稱スルモノナリ
 然レモ此大体ノ關係ハ固有質ヲ有スル所ノ兵ヲ以テ假ニ
 國及國ノ意ニ反對スルモノト視ルニ及ンテ初メテ其特別
 ノ價量及意義ヲ成スヘキナリ
 夫レ國ハ立法者トシテ至高ノ意ヲ有シ兵ト雖モ此意ニ服
 從セサルヘカラサルハ當然トシ此服從ノ義務ハ國法ニ於
 テ國民服從義務ト名ツク然レモ兵ハ元帥ニ服從スルヲ至
 大原則トシ軍令ニ服從スルヲ其原則ノ履踐トスルヲ以テ
 兵ニシテ苟クモ無限ノ軍事服從アルニ非サレハ其職掌ヲ
 盡ス能ハサルナリ

故ニ兵ニ在リテハ二個ノ獨立ノ意ヲ隨テ服從ニ係ルニ
 個ノ原則各獨立シテ相對ス元來此兩原則ハ常ニ相調和シ
 軍令ハ必ス法律ノ實施ニ止マラサルヘカラス然レモ此關
 係ヤ相反スル無キヲ保テ難ク軍令ハ徒々法律而已ナラス
 利サヘ立法權ヲ干犯スルコトアリ此ノ如キニ際スレハ服從
 ノ兩体互ニ矛盾シ此矛盾ノ國ノ大難ヲ釀セシハ古來其例
 ニ乏シカラス
 夫レ公法ニ屬スル綱常ニシテ一定ノ憲法ニ出ルニ非ス自
 己及社會ノ形勢ヨリ生シタル間ハ此ノ如キノ反對多クハ
 腕力ヲ以テ勝敗ヲ決シ軍事服從ハ國民服從ニ勝テリ又雇
 兵即チ多クハ外國人ヲ以テ兵ヲ制シタルモハ元來國民
 服從ノ旨義及感情アルコトナク其元帥ニ服從スルノ外亦タ

一物ヲ知ラス加之此服従ハ德義及法律上ノ元素ニ乏シキ
 ナ以テ變シテ抵抗トナルヲ急速時ニ却テ元帥ヲシテ雇
 兵ノ意ニ服従セシメ遂ニ法律及國ヲ制御スルニ至ル是レ
 即チ軍人壓制ニシテ其極國ヲ亡スニ足レリ然レモ是レ一
 ノ不幸ニシテ亦ヌ世道ニ戻ルモノナルカ故ニ雇兵ノ原則
 ハ獨リ國及民而已ナラス國君ノ大害ナリ既ニ補充法及徵
 兵法ノ創立アルヤ此點ニ係リテ法制ヲ新ニシ此兩法ノ大
 ニ不完全ナルニ拘ハラス國ノ三大部分即チ國ト民ト兵ト
 ノ間ヲ結合シ兵ノ一般公法ヲ全滅スルヲハ久シク絶ヘタ
 リ而シテ兩法ヲ以テ萌芽ヲ發シタルモノハ憲法及舉國兵務
 ナ以テ成熟シタリ
 憲法ニ於テ公法ニ注意シ其各部分ヲ法律上ニ於テ一定ス

ルハ各國皆大同故に憲法は起ルヤ同時ニ兵は法ナ其部
 分トセサルヘカヲサルニ思想起レリ而シテ大ニ民ノ負擔ヲ
 重シシ又全國民ヲシテ軍事服従ヲ帶ヒタル所ノ舉國兵
 務ハ同時ニ憲法内ニ於ケル軍事服従ノ度如何ト云ヘル公
 法上ノ疑問ヲ起セリ蓋シ之カ爲メニ起リタル危疑ハ其初
 メ往事ヲ回想シ常備兵ヲ視テ最上威權者ノ弄具トシ之ヲ
 嫌惡スルニ在リテ此危疑ヤ多クハ千八百四十八年ニ至ル
 マテ綿續セリ此時ニ當リテ兵ニ對スル嫌惡ト自由憲法
 ノ安全ニ對スル危疑ト正ニ相聯絡シ政府ノ自由精神彌々
 確タルヲ知レハ民ノ兵ヲ愛重スル彌々堅キノ實驗ヲ得敷
 十年來此實驗益其確ヲ加ヘタリ是レ兵ヲ爲メニハ勝ヲ算
 スヘカヲサルノ利益ニシテ兵ト民ト自由ニテ外面上

和スヘカヲサル仇敵トナシ互ニ相凌轢シテ止マサルニ似
 タル深重ノ矛盾ヲ承ク防制スヘキ長城トナリ而シテ國ノ生
 存中ナル此兩部分ノ調和ヲ確ニセシメ爲メニ漸ク兵ノ公法
 ニ係ル右ノ大原則ヲ細演シテ民ト憲法ト兵トノ間ニ於ケ
 ル凡百ノ矛盾ヲ撲滅スル處ノ公法ノ一部分ヲ成スヘキ完
 全ノ明法トナセリ
 此法制ノ基礎タル其甚ク簡單ニシテ之ヲ軍事職業ノ教育
 課目トスルモ難シトセズ而シテ之ニ關スル國法上ノ細目ハ
 特別ノ説明ニ屬ス今其理由ト範圍ト地位トノ異ナルニ循
 ヒ之ヲ四大部分トス即チ兵ノ公法ノ元帥ト立法ト行政ト
 國民權トニ關スルモ是レ以テナリ
 一總テ兵ノ公法ヲ至大原則ニシテ國長兵ヲ最上指揮ヲ司ト

リ軍事服從ニ係ル無限ノ權ヲ有スルコト在リ
 是ヲ以テ戰地ニ於ケル指揮及此指揮ニ關スル責任ハ立
 法權(國會)ニ在ラス行政權(陸軍省)ニ在ラス獨リ國長ニ在
 リ
 二立法權ニ對スル關係ハ下ノ原則ニ基ツク曰ク法律ハ平
 時ト戰時トヲ問ハズ總テ國民ト同シク軍隊モ之ヲ遵奉
 スヘシト雖モ立法權ハ唯ク作兵ト兵制ノ網常及行政ト
 ノ基礎ニ係リ法律ヲ定ムルニ止マリ既ニ成ルノ軍隊ヲ
 運用スルコトニ係ル法律ヲ定ムル能ハス
 故ニ其法律ヲ分フコト左ノ如シ
 (イ)作兵ノ法律即チ舉國兵務ノ法ニ在リテハ補充ノ認可
 ニ係ル法律(鎭法)若クハ後備軍ニ係ル法律(後備軍法)是

レナリ此後備ノ法律ハ既ニ前ニ論シタルガ如ク獨リ
 其當ヲ得タルモノトス
 (ロ)軍費定額ニ係ル法律是レ同時ニ費用ノ分配ヲ含包ス
 ルモノトス
 (ハ)兵律及軍事司法ニ係ル法律
 (ニ)軍事教育及之ト相關スル進級ニ係ル法律
 (ホ)軍隊ノ給養ニ係ル法律
 (ヘ)老兵及恩給ニ係ル法律
 總テ右ノ法律ニ屬セス若クハ其法律中細ニ定メサルモ
 ノハ元帥ノ命令陸軍省ノ達令及各事務ノ條例ヲ以テ定
 右ノ法律ヲ纂輯シテ一ハ高尙ナル軍事教育ノ基礎ニ具

ヘ一ハ人民ノ使用ヲ供スルハ重要ニテ欠クヘカラサ
 ルトス然レモ命令條例及達令ハ唯々常職軍人ニ必要
 トスルニ止マル
 其法律ヲ定ムル此ノ如クナルモハ憲法ニ對シテ誓フ
 ノ無益ナルヲ兵ニ於テモ各國民及官吏ニ於ケルト同一
 タリ又法律ノ兵ニ對シテ効アルト否トノ疑問ハ今日ニ
 於テ既ニ答辭ヲ要セス蓋シ此ノ如キ誓ヲ成スト否トテ
 以テ憲法ヲ遵奉スルト否トニ係ル疑義ハ其憲法ヨリ生
 スル法律ニ係ル疑義ト同シク今日ニ至リテ初メテ生ス
 ルモノニ非テス既往ノヨリニ屬スルモノトス
 三兵ノ行政ニ係ル公法ハ陸軍省ト國會トノ關係中ニ集合
 大是レ同省公法上ノ責任ニ係ル原則中ニ顯然タルト他

省ト異ナルヲナシ故ニ國會ハ絶テ兵ト直接スルヲナク
陸軍省ハ其達令條例及訓條ヲ以テ其法律ヲ施行スルノ
責任アル直接ノ機關トス是レ獨リ一般ノ原則ニ止マラ
ス尙ホ各派ノ法律ニ係リテモ皆ナ同シ蓋シ右ニ屬スル
原則ノ實施ハ行政權及憲法上ノ政治權ニ係ル學問ノ知
ル所ナリ

四最モ因難ナルハ(其原則ハ然ラサルモ其實施ニ於テ)吾人
カ兵ノ國民權ト名ツクル所ノ公法ノ部分トス
兵ノ國民權ハ抑モ兵ノ爲メニ用ユル原則ヲ以テ兵ニ屬
スル人ノ國民ノ權及自由ヲ限制スヘキヤ及之ヲ限制ス
ルノ度如何ン並ニ其普通服從ノ軍事服從ニ制セラレハ
キヤ及其制セラレハ其度如何(殊ニ武器ノ使用ニ係リ)ト

云フ疑問ニ對スル答辭ヲ包含スルモノナリ
蓋シ兵制ノ國民ノ生存中ニ干涉スルノ深キカ爲メニ此
疑問ヲ發演シテ一全体ノ權限規則トナシタルハ當然ノ
トニシテ其細密ナル講究ハ國法ニ屬スルヲ勿論ナリ然
レモ其實際適用ノ頻々ナルカ爲メニ既ニ軍事教育ノ課
目トスルニ至レリ今上ノ要點ニ準レ之ヲ二部ニ分ツ
甲兵ニ屬スルカ爲メニ國民ノ自由ヲ限制スルハ左ノ四
項ニ於テス
第一ニ舉國兵務ノ法ニ於テハ自由轉移(外國へ)ノ權ヲ
限制シ兵役義務ヲ盡サスヲ轉移スル者ハ之ヲ逃亡
トス然レモ是レ常備非役兵ニ在リテハ幾分ノ限制ヲ
加ヘ後備兵ニ在リテハ全ク通用スルヲ得ス

第二ニ自由結婚權ヲ限制ス此限制ノ理由ハ兵ノ自由運動ヲ妨クル處ノ家族(妻ヲ娶リテ初メテ家族ヲ成スハ泰西ノ風ナリ故ニ云フ)ノ性質ニ在リトス故ニ常備兵ノ結婚ヲ禁シ常備非役兵結婚ノ許可ヲ要シ後備兵ニ在リテハ自由トシ將校ニ在リテハ保証資金ノ義務アリ

第三ニ軍事服從上己ムヘカラサルコトシテ政治ニ關スル結社ニ加ハルヲ禁ス集會ニ加ハルハ禁セサルヲ原則トスト雖モ軍紀上ヨリ之ヲ禁ス然レモ此兩者獨リ常備兵ニ通用スル而已

第四ニ人身ノ勞役ニ係ル民法上ツ義務ヲ帶ヒル一般ノ業務ヲ負擔スルハ兵役ノ勤務ト戻ル故ニ常備兵ニ

係ル此ノ如キ契約ハ無効トシ常備非役兵ニ係ルモノハ勤務時間ニ限リ契約ノ効ナク後備兵ノ召集セラレタルトモ亦ク同シ蓋シ此定規ハ兵ノ民法ニ移ルノ境界ヲ成スモノナリ

乙軍事服役ニ起源シ(一般)軍事司法ノ管轄(特別)武器ノ施用ニ係リ生スル處ノ權限ハ甚ク重要ナルモノトス今其時會ヲ分ツテ三トス

其第一時會ハ滅嚴是レナリ是レ外國ノ勢威ト現發若クハ未發ノ内亂ノ勢威トテ問ハス其國ノ機關ノ全部ヲ一地方若クハ全國ニ於テ劫カスニ起ルモノニシテ政府ハ此全國ニ關スルノ危難ヲ防シ爲メニ其危難中國民權ノ自由施行ニシテ敵ノ利益トナルヘキモノヲ

停止スルノ權利ヲ有ス此時ニ當リテハ國民權ニ代ユルニ軍事服従ヲ以テシ人民ト雖モ軍事司法ノ管轄スル所トナル今此ノ如ク法律ニ循ヒ公告シタル景況ヲ名ツケテ戒嚴ト云フ

戒嚴ノ語ハ其限界ヲ確定シタル意義ヲ有セス然レモ其要トスル所ハ解釋ニ在ラス蓋シ戒嚴ハ國民權ノ多分ヲ停止スルニ非サレハ行フ能ハサルカ故ニ戒嚴ノ性質ハ危難ノ時ニ於テ國民權ヲ停止シ普通服従ニ代ユルニ軍事服従ヲ以テシ普通裁判所及普通治罪ニ代ユルニ軍事司法(人民ニ對シテモ)ヲ以テスヘキ政府(憲法ニ循ヒ政府ニ委スル所)ノ權利ニ在リトス此權利ハ事ノ自然ニ出ルモノニシテ其原則ハ古今存セサル

ナシト雖モ戒嚴ノ法式及効力ニ係ル一定完全ノ法律ヲ生シタルハ憲法ノ進歩ニ屬ス蓋シ各國ノ法律其變化多端ナルニ拘ハラズ其同ンキモノ三事アリ即チ第一國民ヲシテ其公告セラレタル戒嚴ノ時日中軍令ニ服従シ若シ服従セサレハ軍事刑ニ處セラレヘキ義務アラシメ其景況ノ然ラシムルキハ指揮ノ權限ヲ弘張シテ人民ニ及ホス第二戒嚴ヲ限ルニ時ト地トヲ以テスル第三戒嚴公告ニ係リ官廳ヲシテ責任アラシムルト是ナリ但其法式項目權利ノ細詳ハ各國甚ク異ナリトス

其第二時會ハ非常裁判是レナリ非常裁判ノ性質ハ寇盜放火謀殺兇徒聚衆ニ屬スル犯罪ヲ鎮定セン爲メニ

普通ノ裁判所治罪及刑ニ代ユル軍事裁判所治罪及刑ヲ以テ神速ノ處斷ヲ以テ恐嚇シ其犯罪ヲ防止スルニ在リ蓋シ非常裁判アルハ普通司法ノ備ハラサル歟若クハ人民教育ノ乏シキノ証ナリ故ニ此制ヲ用ユルノ國ハ甚々少ナク(獨リ埃國ニ在リ)文明ノ國ニ於テ其景况危難ナルキハ戒嚴ヲ以テ之ニ代ユルモノナリ其第三時會ハ國民ニ對シテ武器ヲ使用スル是レナリ是レ武力ニ對シテ國民ノ生命及自由ヲ保護セントスル近世ノ研究ニ依リ簡單ノ法則トナリシモノナリ蓋シ狀況ニ依リテハ武器ノ施用已ヲ得サルヲ疑テ容セズ然レモ其使用ヲ擅ニスル者ハ國民ノ生命及自由ヲ賊フヲ亦々明ナリ此矛盾ヲ解クノ法ヤ既ニ久シ而シテ

今猶ホ存ス其法ハ法律ヲ以テ軍人ノ其武器ヲ使用スル前ニ人民其騒動ノ場所ヲ退クヘキ細密ノ法式ヲ定メ此法式ヲ履行シ尙ホ其命ニ從ハサルニ於テハ其武器ノ使用ヲシテ法律上無限ノモノタラシムルニ在リ今此法式ハ外様知見スヘキ命令(鼓若クハ喇叭若クハ口上ノ命令)ヲ以テ國民服從ノ義務ヲ守ルヘク人民ニ督責スルニ在リ人民若シ之ニ從ハサルハ初メテ武器ヲ使用スルノ權及務アリ之ヲ要スルニ此法式ナクレハ軍人ハ自カヨ攻撃セラル、ニ非サレハ武器ヲ使用スルノ義務ハ勿論又其權利ヲ有セス苟クモ此法式ヲ行ヒ人民服從セサルニ於テハ直ニ軍事服從ノ義務ヲ帯ビ敵ト認メラル而シテ軍人ハ此時ニ當レハ必ズ命

五 五 二 二 二 二 十 丁
十 十 十 十 十 十 二
八 一 七 四 二 二 二

正
誤

五 十 八 十 九 一 十 行
二 二

用 取 離 毀 考 點 可 誤
府 ヲ 庄 盛 案 止 シ

用 所 雖 殷 考 默 可 正
度 ヲ 庄 盛 察 止 シ

明治十五年八月廿四日出版權免許
十一月十日出版

定價金貳拾錢

譯者

木下周
芝區芝新田町一
拾九番地
福井縣士族

全

山脇玄
麴町區土手三番町
七番地

三重縣士族

近藤幸止
麴町區飯田町五丁
目四十番地

東京府平民

島屋介
東京日本橋區兩國
吉川町六番地

大賣捌所

出版人



大正十一年

出列人

全

籍

東京

東京市

表

東京市

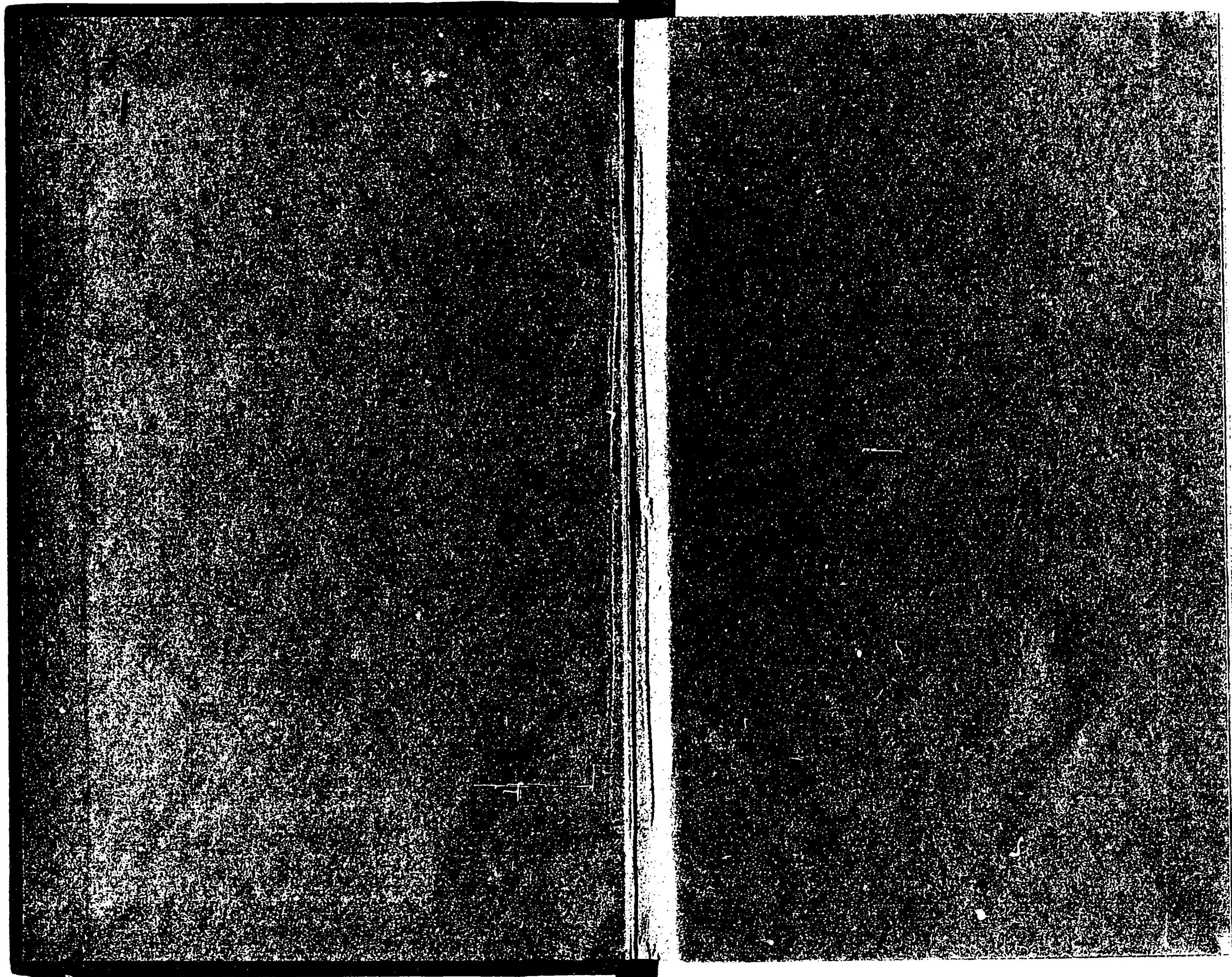
山

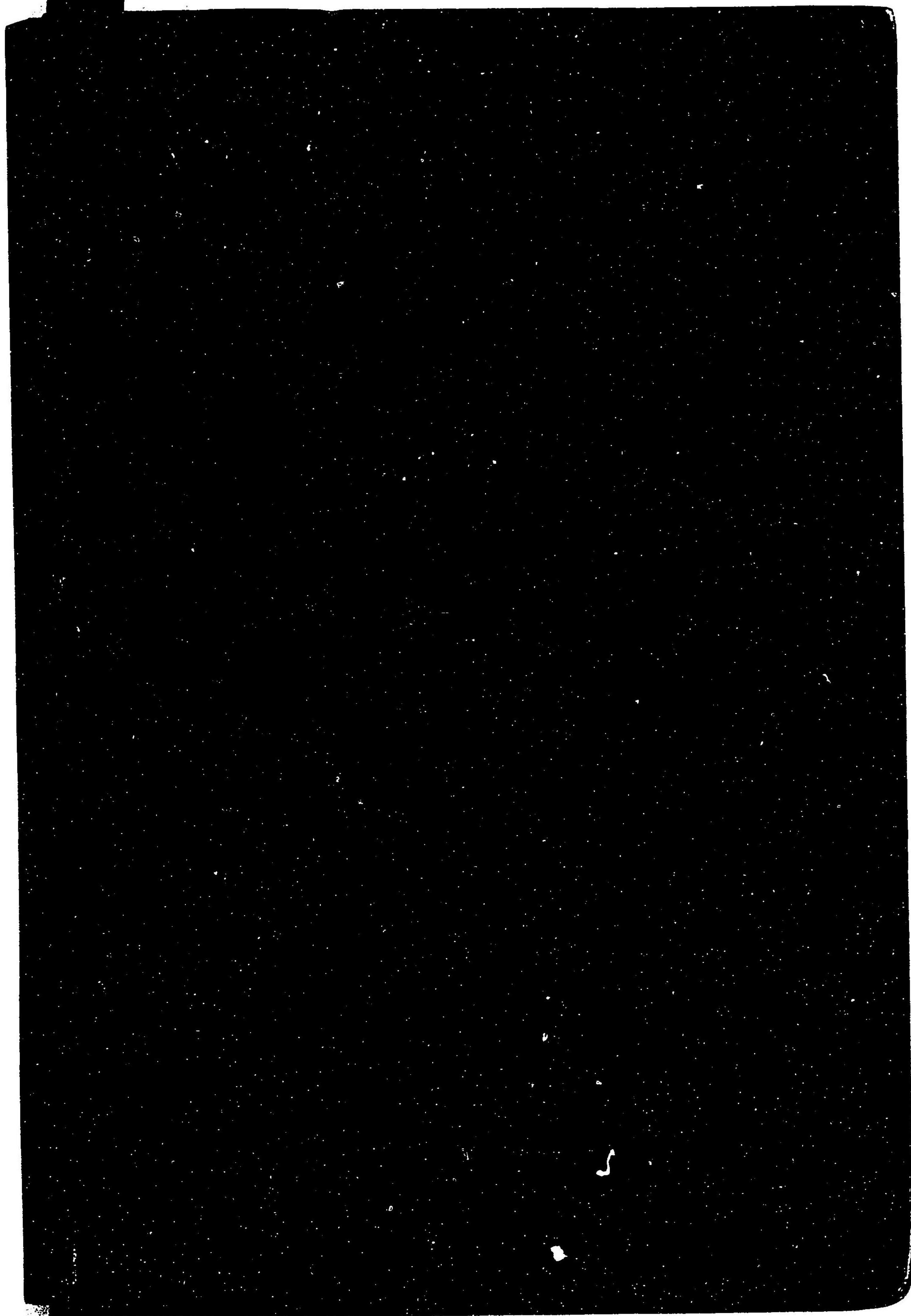
東京市

水

東京市

大正十一年八月廿四日





051265-000-3

33-1

兵制学

フォン・スタイン/著

M15

BFA-0484



